

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	諫早市立長田中学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	特産のたまねぎを使って持続可能な地域振興を探らせる

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 活動に至る経緯

本校は諫早市の中心部に近いものの、南側に開けた土地で日当たりも良く農家が多い。明治時代から盛んに栽培されてきた「長田たまねぎ」は、JAながさき県央によってブランディングされ「諫早たまねぎ」として全国的に有名である。「長田」で作った「長田たまねぎ」のことをよく知り、栽培・加工・販売を通して、「ふるさと」を大事にする気持ちを育てていきたいと思ったことが実施への経緯である。

2 活動・研究の目的（ねらい）

探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人・もの・ことに関わる学習や体験を通して根拠を明らかにしながら課題を解決し、主体的・自律的・創造的に自己の生き方を見つけようとする態度を育てる。

3 活動内容

- 本校の活動の一番大きな特徴は、「地域とともにある『ふるさと学習』」ということであり、地元JAながさき県央・玉葱部会の川原会長や、地元自治会の長濱会長を中心に、たまねぎ栽培を核としたふるさと学習が実現した。畑も、今年度から学校の裏の圃場を地域の方が快く貸していただき、学校から徒歩圏内にある圃場と合わせて2か所で栽培学習ができるようになった。
- たまねぎを栽培することで1次産業について学んだ。さらに、このたまねぎをつかった加工を校区内の事業所（長崎ジャーjeeファーム）との連携ができるようになり、「長田中学校産たまねぎ」を使った「たまねぎジェラート」が完成した。このことによって、2次産業についても学ぶことができた。また、アイスクリームのパッケージデザインも生徒が行い、4パターンが選ばれ、商品化された。商業デザインについても体験し学ぶことができた。



- 体育祭で栽培したたまねぎを販売することで、「売る大変さ」も学んだ。
- 地元婦人会にも協力していただき、たまねぎドレッシングの加工の取組も始まった。今はまだ、試食の段階である。
- 新しい協力企業を探すために、生徒たちにも交渉の場に立ち合わせた。諫早市内でも一番おいしいと評判の「諫早パン工房 石窯人（カマンド）様 所在地：〒854-0041 長崎県諫早市小船越町 906-7」に出向き、毎週 20 キロを納入し、カレーパンに加工してくださる約束をした。このことによって生徒たちは、美味しいものを作れば、利用してくれる企業があることと、生徒たちの取組を手伝ってくれる大人の存在を知ることができた。

活動時期及び内容

令和 5 年

- 4 月 昨年度植え付けたたまねぎの収穫
- 5 月 体育祭でのたまねぎ販売体験
地元企業との「たまねぎジェラート」試作
- 6 月 諫早市地域おこし協力隊の方との連携
パッケージデザイン作成開始（美術科）
- 7 月 たまねぎジェラート完成
- 8 月 パッケージ製作依頼
- 10 月 畑の準備
- 11 月 たまねぎの苗を植え付ける。（13,000 本）
- 12 月～令和 6 年 3 月 草取りや追肥など、たまねぎの世話をした。



収穫された「長田たまねぎ」



植付けの様子



草取りの様子



4 子供たちへの効果（成果）

- 生徒たちがたまねぎ栽培をすることで、地域の人たちの目が中学校に温かく向いたことで、地域の人々の愛情を感じ取ることができた。
- 1 次産業、2 次産業、3 次産業と切れ目なく体験することで、生徒たちは社会の仕組みを理解し、自ら販路の拡大や調査を行うことができた。
- 長田たまねぎの美味しさを知り、伝えることで「ふるさと」の良さを発見することができた。生徒たちは、地域の良さやたまねぎの美味しさを知ったことによって、自信をもって情報発信ができるようになった。
- 次年度（令和 6 年度）も引き続き持続可能な地域振興を探らせる研究をしていきたい。今回の助成金のおかげで、豊かな教育活動を展開することができた。衷心から感謝申し上げます。